



『市電と古本』

市電への愛や、思い出を語って頂くこのコーナー。第7回は特別編として、市電通り沿いの二つの古本屋さんをピックアップ。今年の11月で一周年を迎える『古本トロニカ』と、オープンしてから三十数年が経つ『なづな書館』。市電のお供は、ぜひ両店で選んだ古本で。

—この場所にお店を出す経緯から教えてください。

物件を探し始めた当初から、場所は市電通り沿いと決めていました。市電を眺めることができ、しかも古い建物。厳密にマーケティング調査をすると、また場所の条件も変わってくると思うのですが、とにかく自分の中のイメージを重視しました。僕は2009年までの6年間東京で働いていたのですが、札幌に戻ってきたときに、以前自分が好きで通っていたカフェや中古CD屋さんが、ほとんど閉店していて。自分の行く店がなくなっちゃって、何かつまらないなど。効率だけを考えるなら、倉庫を借りてインターネットで販売するほうがいいし、それが今の古本屋の一つの流れでもあるのですが……でも、やっぱり自分が行きたくなるような場所を作りたい、という想いがありましたね。

—市電通り沿い、というイメージはどこから出てきたのですか？

元々、市電の走っている風景が好きなんです。子どもの頃は旭川に住んでいたのですが、たまに札幌に連れてきてもらうことがあって。初めて市電を見たときはびっくりしまし

た。「どうしても乗ってみたい」とお願いしてぐるっと一周したのですが、僕がすごくはしゃいでいるのを見て、運転手さんも喜んでくれたそうです(笑)。

—お店を出す前に、ネットのみで販売をしていましたね。実店舗があるのとネットのみでは、やはり違いますか？

ネットの商売って、札幌にいながら札幌以外の人を相手にしている感じ。お店を開いたことでお客様の年代は幅広くなったし、イベントに参加することも増えました。あとは、やっぱり実店舗が増えないと、まちが盛り上がる感じがしませんよね。

—では今後のことをお願いします。

12/15(木)~12/18(日)は、リトルブレスのイベントを、1/8(日)には札幌地下歩行空間で小さい古本市&レコード市を計画中です。本とレコードのレビューを掲載したフリーペーパーも、年内には発行できるんじゃないかな。やっぱり自分たちでどんどん企画していかないと、楽しいイベントは増えていきませんから。自分主催って結構エネルギーが必要なのですが……個人的にはこれからも毎月イベントに参加したいと思っています。

古本トロニカ  広川 啓規さん

—古本屋を開こうと思ったきっかけを教えてください。

うーんと、友達に誘われたから(笑)。この建物は当時シャッターが下りていたんだけど、前ははんこ屋さんだったそうです。もっと前は下駄屋さん。しかも店内を二つに区切って、半分が喫茶店だった時代もあったみたい。内装は全然じっていません。本棚を自分たちで作ったくらい。最初、店の本は自分たちで持ち寄っていたので、少なかったですね。古書組合には入らなかったで、全部買い取りで仕入れてあります。古本ってリサイクルのイメージがあるみたいだけど、売れなさそうなものは処分しますから、実は一番本を捨てているのは古本屋かもしれません。売れる売れないの基準は、全て経験則です。ある程度長くやっていると、直感的にわかります。本というのは「ちゃんと棚に並べてくれ」とか、「誰かがこれを探しているよ」とか、オーラを発するものなんです。

—目と鼻の先を市電が通りますね。日中だと7分おきくらいに。

ドアを開けていると、結構うるさいです(苦笑)。ラジオが聞こえなかったり、お客さんとの会話が途切れたり。昔店に泊まり込んで仕事をしたことがあって、寝袋で床の上に寝ていたら、始発の振動で起こされました(笑)。軌道敷地内通行禁止の法規を守らない車も多いですね。あと、オープンした頃は、ラッピング電車ってなかったんですよ。見た感じはやっぱり緑の車両の方がいいですよ。

—竹内さんは函館出身ですが、函館と札幌で市電について違いはありますか？

函館に港祭りというお祭りがあるのですが、その日は市電が仮装をするんです。大きな船にしてみたり、お城にしてみたり。それはみんな観に行きます。札幌にはそういう機会はないですよ。あと、中学生のときに札幌に引っ越してきたのですが、札幌の市電車内の狭さにびっくりしました。軌道の幅も、函館の方が広いそうです。

—この界隈の印象は？

なづな書館  竹内 慎二さん

この辺は法務局とか裁判所が近いこともあって、弁護士さんや行政書士さんなどの小さい事務所が集まったまちだなという印象があります。医大が近いので「お客さんは医大の学生さんが多いですか？」って聞かれるけど、どうも違うなど。付近にお勤めされている方が、仕事の合間によく本を買っていかれますね。

—では今後のことを

世の中も自分も、なるようにしかならないと思っているので……今後やりたいこととか、そういう発想がそもそもない。ここに並ぶ本もお客さんの持ち込みです。積極的に自分が選んだわけではなく、削って残しているだけです。この店は、これからも変わらないでしょうね。